

乳酸菌生成エキスの投与による腸内環境の変化が口腔内カリエスリスクに及ぼす影響



■ 落合歯科医院 院長 落合 義徳 先生

■ 第10回日本代替・相補・伝統医療連合会議(JACT)・第6回日本統合医療学会(JIM)合同大会2006にて発表

落合 義徳先生

【目的】

口腔内のカリエスリスクの要因には、唾液の緩衝能が深く関係している。また、血液由来である唾液は、血液の質を左右する腸内環境が深く関係しているのではないかと思われる。そこで、本研究では『乳酸菌生成エキス』による腸内環境の改善が、唾液緩衝能および口腔内カリエスリスクに及ぼす影響を検討した。

【方法】

3人の被験者において、『乳酸菌生成エキス』飲用前後で唾液の分泌量、緩衝能、口腔内細菌(mutansstreptococciとlactobacillusの数の評価)の検査を行った。『乳酸菌生成エキス』10mlは、10日間・1日2回経口投与した。

【結果】

3人の被験者で、投与前の唾液分泌量5分間測定でAは5.5ml(1.1ml/分)でローリスク、Bは6.0ml(1.2ml/分)でノーリスク、Cは6.0ml(1.2ml/分)でノーリスク、投与後、Aは8.8ml(1.76ml/分)でノーリスク、Bは5.0ml(1.0ml/分)でローリスク、Cは8.0ml(1.6ml/分)でノーリスクという結果になった(Table 1, 2)。

【考察】

『乳酸菌生成エキス』投与による腸内環境の改善をおこなった事で口腔内のカリエスリスクが低下したという結果は、**唾液の機能が向上したことによる**。本来口腔内のカリエスリスクは、口腔内の細菌のコントロール、食生活、精神状態(ストレス)などが大きな要因になる。本研究で腸内の改善を行った事により良好な結果が得られたことは、**口腔内の状態は、口腔内要因にとどまらず腸内環境が大きく影響していることを示唆している**。

【口腔内カリエスリスクの評価】

Table1. 乳酸菌生成エキス投与前

項目	被験者	A	B	C
唾液緩衝能		緑	緑	青
唾液 pH		5.1	4.9	5.0
唾液分泌量 (nh) 注1		5.5	6.0	6.0
〃 (nh/分)		1.1	1.2	1.2
カリエスリスク		ローリスク	ノーリスク	ノーリスク
口腔内細菌数 注2 (ミュータンス連鎖球菌)		クラス0	クラス1	クラス1

注1: 唾液分泌量は5分間測定です。

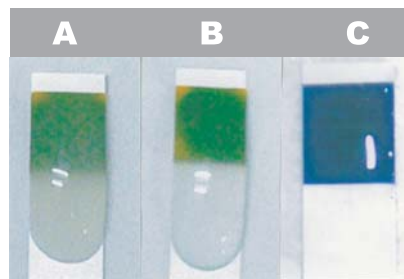
注2: 基準10万/ml以下

飲用10日後

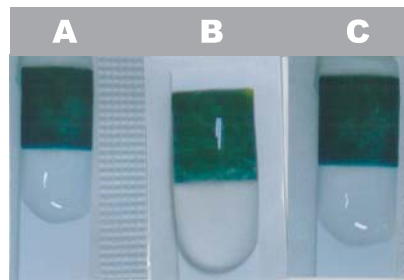
Table2. 乳酸菌生成エキス投与後

項目	被験者	A	B	C
唾液緩衝能		青	緑	青
唾液 pH		5.6	5.1	5.5
唾液分泌量 (nh) 注1		8.8	5.0	8.0
〃 (nh/分)		1.76	1.0	1.6
カリエスリスク		ノーリスク	ローリスク	ノーリスク
口腔内細菌数 注2 (ミュータンス連鎖球菌)		クラス0	クラス0	クラス0

【唾液緩衝能テストパレット】



飲用10日後



テストパレットの色 黄 緑 青
 唾液緩衝能 低 ← 中 → 高